



<先進地紹介>

山形県尾花沢市 ～銀山温泉～

○ 銀山温泉の概要

尾花沢市は、山形県の東部に位置し、「日本の三雪の地」といわれる豪雪地帯です。また、先を急ぐ「奥の細道」の道中に松尾芭蕉と曾良が10泊も過ごした地としても知られています。

その中でも、銀山温泉は銀山川の両側に木造三層四層の旅館が軒を並べる大正時代の面影を残す温泉街です。

○ まちづくりの取組み

尾花沢市では、昭和61年に銀山温泉地区における特徴的建物群を保存し、温泉街景観の保持を図ることにより、観光の振興を目的する銀山温泉家並保存条例を制定し、保存地域内における建築等に対して、補助を行っています。また、平成13年度には、地元温泉旅館関係者らが主体となり、「湯のまちづくり委員会」を発足し、東大堀教授のアドバイスを受けながら、「おもてなしの心で魅力的な温泉まち」を目指し、ソフト・ハードの両面から検討を重ねてきました。ソフト面としては、温泉組合や女将会による研修会の実施等を行いました。ハード面としては、老朽化の進んだ共同浴場を景観も考慮して移築し、跡地に源泉をそのまま使用した「和楽足湯」や白銀はしに銀山川を一望できる「ねまる座」を設置しました。平成15年度からは、「日本一浴衣の似合う散策路」を目指し、堀教授のアドバイスを受けながら、温泉主体となった検討会を開き、電線地中化に合わせ、温泉街上流部に視点場と休憩場の設置等を検討しています。

○ 銀山温泉を訪れた感想

銀山温泉では検討会により、立場の違う多くの人の意見を集約し、景観整備に取り組んでいます。地域にある財産を再認識して、景観を保持していくことで地域全体の活力につながっていると感じました。



銀山川の両側に軒を並べる温泉街



木造多層の旅館